

COSMETIC COMPOSITION**Publication number:** JP2000053524**Publication date:** 2000-02-22**Inventor:** ISHII HIROJI; YUMIOKA RYOSUKE; KOYAMA MASAKO**Applicant:** AJINOMOTO KK**Classification:**

- International: A61K8/30; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/44; A61K8/92; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/04; A61Q1/10; A61Q1/12; A61Q1/14; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/04; A61Q5/12; A61Q9/02; A61Q19/00; A61Q19/10; A61K8/30; A61K8/00; A61K8/02; A61K8/92; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/12; A61Q1/14; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/04; A61Q5/12; A61Q9/02; A61Q19/00; A61Q19/10; (IPC1-7): A61K7/02; A61K7/025; A61K7/032; A61K7/035; A61K7/06; A61K7/075; A61K7/08; A61K7/09; A61K7/15; A61K7/48; A61K7/50; A61K7/00

- European:**Application number:** JP19990133625 19990514**Priority number(s):** JP19990133625 19990514; JP19980150894 19980601[Report a data error here](#)**Abstract of JP2000053524**

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic which improves the greasy touch peculiar to oily raw materials and is excellent in the conditioning effect, e.g. application feeling such as good spread, agreeableness, smoothness or the like as for skin, giving smoothness and pliability, fine combability or the like to hair. **SOLUTION:** This cosmetic composition is obtained by including an N-long chain acyl neutral amino acid ester (component A) in which a straight or branched chain of saturated or unsaturated acyl group has a carbon atom number of 6-22 and hydrocarbon group constructing its alcohol part is a straight or branched chain of saturated or unsaturated hydrocarbon group with a carbon atom number of 1-10 or/and an N-long chain acyl acidic amino acid diester (component B) in which a straight or branched chain of saturated or unsaturated acyl group has a carbon atom number of 6-22 and hydrocarbon group constructing its alcohol part is a straight or branched chain of saturated or unsaturated hydrocarbon group with a carbon atom numbers of 1-10, and a cosmetic oily raw material (component C) as active ingredients.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-53524

(P2000-53524A)

(43) 公開日 平成12年2月22日 (2000.2.22)

(51) Int.Cl.	識別記号	F I	テマコード (参考)
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00	C
			U
// A 6 1 K 7/02		7/02	A
7/025		7/025	
7/032		7/032	
審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 29 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願平11-133625	(71) 出願人	000000066 味の素株式会社 東京都中央区京橋1丁目15番1号
(22) 出願日	平成11年5月14日 (1999.5.14)	(72) 発明者	石井 博治 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の 素株式会社アミノサイエンス研究所内
(31) 優先権主張番号	特願平10-150894	(72) 発明者	弓岡 良輔 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の 素株式会社アミノサイエンス研究所内
(32) 優先日	平成10年6月1日 (1998.6.1)	(72) 発明者	小山 匡子 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の 素株式会社アミノサイエンス研究所内
(33) 優先権主張国	日本 (J P)	(74) 代理人	100064687 弁理士 霜越 正夫 (外1名)

(54) 【発明の名称】 化粧品組成物

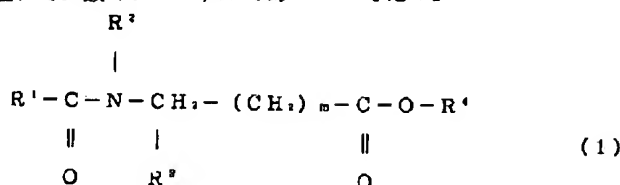
(57) 【要約】

【課題】油性原料に特有のべたつき感を改善し、皮膚に対するのび、なじみ、なめらかさ等の使用感、毛髪に対するなめらかさ、やわらかさの付与、梅どおりの良さ等のコンディショニング効果に優れた化粧品を提供すること。

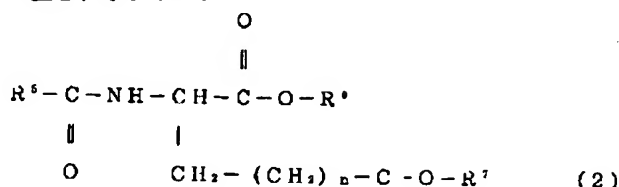
【解決手段】炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）又は／及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル（成分B）並びに化粧品用油性原料（成分C）を有効成分として含有することを特徴とする化粧品組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）又は／及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであ



（式中、R¹は炭素原子数5～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R²は水素原子又は炭素原子数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R³は水素原子又は炭素原子数1～4の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R⁴は炭素原子数1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてmは0～2



（式中、R⁵は炭素原子数5～21の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R⁶及びR⁷はそれぞれ独立に炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてnは0又は1の整数を示す。）

【請求項4】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルを構成する中性アミノ酸がザルコシン、アラニン、グリシンまたはN-メチル-β-アラニンから選ばれる中性アミノ酸であることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の化粧料組成物。

【請求項5】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルのアルコール部位がイソプロピル基であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の化粧料組成物。

【請求項6】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルのアシル基がラウロイル基であることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧料組成物、更に詳しくはN-長鎖アシル中性アミノ酸エステル又は／及びN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステル並びに化粧

料、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル（成分B）並びに化粧料用油性原料（成分C）を有効成分として含有することを特徴とする化粧料組成物。

【請求項2】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルが下記一般式（1）で表されるものであることを特徴とする請求項1記載の化粧料組成物。

【化1】

の整数を示す。）

【請求項3】N-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルが下記一般式（2）で表されるものであることを特徴とする請求項1または2記載の化粧料組成物。

【化2】

料用油性原料を有効成分として含有することを特徴とする化粧料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】化粧料において、化粧料に配合される成分の結合剤、エモリエント剤、剤型を保つといった観点や毛髪に対するコンディショニング性を与える等の目的から油性原料が汎用される。従来、化粧料用の油性原料としては、流動パラフィンなどの鉱物油やミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピルなどの脂肪酸エステル等が広く用いられている。

【0003】しかしながら、これらの油性原料は、べたつき感があり、また皮膚に対するのび、なじみのよさ、なめらかさ等の使用感を損ねるという問題があった。また、毛髪に対するコンディショニング効果においても、十分なものではなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】前項記載の従来技術の背景下に、本発明の目的は、油性原料に特有のべたつき感を改善し、皮膚に対するのび、なじみ、なめらかさ等の使用感、毛髪に対するなめらかさ、やわらかさの付与、櫛どおりの良さ等のコンディショニング効果に優れ

る化粧品を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者は、前項記載の目的を達成すべく鋭意研究の結果、化粧品用油性原料に特定のN-長鎖アシル中性又は酸性アミノ酸エステルを併用することで前記問題点の解消され得ることを見出し、このような知見に基いて本発明を完成するに至った。

【0006】すなわち、本発明は、炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル中性アミノ酸のエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）又は／及び炭素原子数6～22の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基を有するN-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステルであって、そのアルコール部位を構成する炭化水素基が炭素原子数1～10の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の炭化水素基である、N-長鎖アシル酸性アミノ酸のジエステル（成分B）並びに化粧品用油性原料（成分C）を有効成分として含有することを特徴とする化粧品組成物に関する。

【0007】ここに、成分Aのエステルおよび成分Bのジエステルはともにいわゆる化粧品用油性原料（広義）に属するが、本発明に関して成分Cの化粧品用油性原料は、成分Aおよび成分Bの化粧品用油性原料を除く、狭義の化粧品用油性原料である。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。

【0009】まず、本発明の化粧品組成物の必須成分の一であるN-長鎖アシル中性又は酸性アミノ酸エステルについて説明する。

【0010】最初に、本発明に係わるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステル（成分A）について詳述する。

【0011】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの長鎖アシル基としては、炭素原子数6～22の直鎖または分岐鎖の飽和または不飽和のものであり、例えば、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ペヘニン酸、リノール酸、リノレイン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、2

ーエチルヘキサン酸、ヤシ油脂肪酸、牛脂脂肪酸、硬化牛脂脂肪酸等から誘導することのできるアシル基を挙げることができる。好ましいアシル基としては、カプロイル基、ラウロイル基、ミリスチル基、パルミトイル基、ステアロイル基、ペヘノイル基、ヤシ油脂肪酸アシル基（ココイル基）、硬化牛脂脂肪酸アシル基、バーム核油脂肪酸アシル基等が挙げられる。

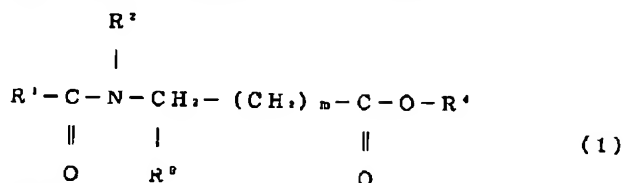
【0012】また、中性アミノ酸部位を構成する中性アミノ酸は、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、スレオニン、プロリン、β-アラニン、アミノ酪酸、ザルコシン、N-メチル-β-アラニン等の中性アミノ酸が挙げられる。好ましくは、グリシン、アラニン、β-アラニン、α-アミノ酪酸、γ-アミノ酪酸、ザルコシン及びN-メチル-β-アラニンであり、特に好ましいのはザルコシン、アラニン、グリシン及びN-メチル-β-アラニンである。なお、これらのアミノ酸は、光学活性体又はラセミ体のいずれでもよい。

【0013】また、アルコール部位を構成する炭化水素基は、炭素原子数が1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基であるが、アルキル基のものが好ましく、例えばメタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール、ト-ブタノール、イソブタノール、3-メチル-1-ブタノール、2-メチル-1-ブタノール、フーゼル油、ペンタノール、ヘキサノール、シクロヘキサノール、オクタノール、2-エチルヘキサノール、デカノールなどから誘導することのできる炭化水素基を挙げることができる。また、使用感等の観点から炭素原子数2～8の分岐鎖又は直鎖のアルキル基が好ましく、更に炭素原子数2～5の分岐鎖又は直鎖のアルキル基がより好ましい。また、使用感等に加え加水分解安定性の面から、炭素原子数3～5の分岐鎖のアルキル基が特に好ましく、例えばイロプロピル基、ト-ブチル基、イソブチル基などが挙げられる。このうち、最も好ましいのはイソプロピル基である。

【0014】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの好ましい例を一般式で示すと、下記一般式（1）で表されるものを挙げることができる。

【0015】

【化3】



【0016】（式中、R¹は炭素原子数5～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R²は水素原子又は炭素原子数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R³は水素原子又は炭素原子数1～4の直鎖又は

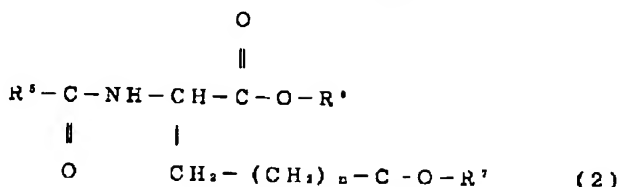
分岐鎖のアルキル基を、R⁴は炭素原子数1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてmは0～2の整数を示す。）

【0017】一般式（1）中、アシル基（R¹-CO

ー) 及びアルコール部位を構成する炭化水素基のR⁴として好ましいものは前述した通りである。また、アミノ酸部位として好ましいものも前述した通りである。

【0018】本発明におけるN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルは、例えば、N-長鎖アシル中性アミノ酸とアルコールとを常圧または減圧下で加熱脱水縮合エステル化することにより得ることができる。また、トルエンなどの溶媒を用いた共沸脱水縮合反応やエステル交換反応によることもできる。このようなN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの合成に使用するN-長鎖アシル中性アミノ酸やアルコールは、必ずしも単一化合物である必要はなく、アシル基や中性アミノ酸の種類の異なるN-長鎖アシル中性アミノ酸の混合物であってもよく、鎖長等の異なるアルコールの混合物であってもよい。

【0019】因みに、N-長鎖アシル中性アミノ酸は、例えば塩基性触媒下に長鎖脂肪酸ハライドとアミノ酸とを反応させるいわゆるシュotten・バウマン反応(特公昭51-38681号公報など参照)等の公知の方法により製造することができる。



【0026】(式中、R⁵は炭素原子数5~21の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R⁶及びR⁷はそれぞれ独立に炭素原子数1~10の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてnは0又は1の整数を示す。)

【0027】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルは、例えば、N-長鎖アシル酸性アミノ酸とアルコールとを常圧又は減圧下で加熱脱水縮合エステル化することにより得ることができる。また、トルエンなどを溶媒として用いた共沸脱水縮合反応やエステル交換反応によることもできる。このようなN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの合成に使用するN-長鎖アシル酸性アミノ酸やアルコールは、必ずしも単一化合物である必要はなく、アシル基や酸性アミノ酸の種類の異なるN-長鎖アシル酸性アミノ酸の混合物であってもよく、鎖長等の異なるアルコールの混合物であってもよい。

【0028】因みに、N-長鎖アシル酸性アミノ酸は、例えば塩基性触媒下に長鎖脂肪酸ハライドとアミノ酸とを反応させるいわゆるシュotten・バウマン反応(特公昭46-8685、特公昭48-35058、特公昭51-38681号公報など参照)等の公知の方法により製造することができる。

【0020】次に、N-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステル(成分B)について詳述する。

【0021】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの長鎖アシル基は、上に説明したN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの長鎖アシル基と同じであり、好ましいアシル基も同じである。

【0022】また、酸性アミノ酸部位を構成する酸性アミノ酸は、グルタミン酸、アスパラギン酸等が挙げられる。特に好ましいのはグルタミン酸である。なお、これらのアミノ酸は、光学活性体でもラセミ体でも、いずれでもよい。

【0023】また、エステル部位を構成する炭化水素基は、先に説明したN-長鎖アシル中性アミノ酸エステルの場合と同じであり、好ましいものも同じである。

【0024】本発明におけるN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルの好ましい例を一般式で示すと、下記一般式(2)で表されるものを挙げることができる。

【0025】

【化4】

【0029】これらのN-長鎖アシルアミノ酸エステルは、皮膚や粘膜に対する刺激性が低く、また皮膚へのびのよさ、なじみのよさ、なめらかさといった使用感にも優れることから特に化粧品用の油性原料として用いるのに優れたものである。特に、N-長鎖アシル中性アミノ酸ジエステルは油性原料に特有の不快感、べたつき感がなく、さっぱりあるいはさらさらした軽い感触に優れており、化粧品に用いる上でN-長鎖アシル酸性アミノ酸ジエステルよりも好ましい。

【0030】次に、成分Cの化粧品用油性原料について説明する。化粧品用油性原料は、天然系、鉱物系および合成系に大別することができる。

【0031】天然系油性原料としては、ミツロウ、サラシミツロウ、キャンデリラロウ、カルナバロウ、イボタロウ、モクロウ、コメヌカロウ、サラシモンタロウ、ラノリン、セレスン、スクワラン、プリスタン、テレピン油、ユーカリ油、テルピネオール、ユーカリプトル、オリーブ油、ツバキ油、チャ実油、サザンカ油、サフラワール油、ヒマワリ油、大豆油、綿実油、ゴマ油、トウモロコシ油、ラッカセイ油、ナタネ油、コメヌカ油、コメ胚芽油、ハトムギ油、ブドウ種子油、アルモンド油、ホホバ油、アボガド油、カロット油、マカデミアナッツ油、ヘーゼルナッツ油、メドウフォーム油、シア脂、月

見草油、カカオ脂、ヒマシ油、硬化ヒマシ油、アマニ油、ヤシ油、パーム油、パーム核油、牛脂、馬油、ミンク油、タラ肝油、サメ肝油、オレングラフィー油、乳脂、卵黄油、卵黄脂肪油、粉末脂肪油、チョウジ油、ローズヒップ油、ラベンダー油、ローマカミツレ油、ローズマリー油、等が挙げられ、部分的に化学的に修飾させた天然系油性原料として、部分加水分解ホホバ油、オキシステアリン酸硬化ヒマシ油、酢酸ヒマシ油、部分水素添加馬油、吸着精製ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、酢酸硬質ラノリン、酢酸液状ラノリン等が挙げられる。

【0032】鉱物系油性原料としては、流動パラフィン、軽質パラフィン、重質パラフィン、揮発性パラフィン、液化石油ガス、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等が挙げられる。

【0033】合成系油性原料としては、酢酸（セチルラノリル）エステル、トリアセチルグリセリル、プロピオン酸エイコサニル、乳酸ラウリル、乳酸ミリスチル、乳酸セチル、乳酸オクチルドデシル、リンゴ酸ジイソステアリル、コハク酸ポリプロピレングリコールオリゴエステル、コハク酸2エチルヘキシル、ヘプタン酸ステアリル、アジピン酸ジイソプロピル、アジピン酸ジブチル、アジピン酸ジオクチル、アジピン酸ジ2エチルヘキシル、アジピン酸ジ2ヘプチルウンデシル、カプリル酸セチル、トリカプリン酸グリセリル、2エチルヘキサン酸セチル、2エチルヘキサン酸セトステアリル、トリ2エチルヘキサン酸グリセリル、テトラ2エチルヘキサン酸ペンタエリスリット、オクタン酸イソセチル、オクタン酸イソステアリル、ジオクタン酸エチレングリコール、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、ジメチルオクタン酸オクチルドデシル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソデシル、イソノナン酸イソトリデシル、ジノナン酸イソトリデシル、ジノナン酸プロピレングリコール、ペラルゴン酸オクチル、イソペラルゴン酸オクチル、トリ（カプリル・カプロン酸）グリセリン、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、セバシン酸ジイソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、ラウリン酸イソステアリル、トリラウリン酸グリセリル、トリヤシ油脂肪酸グリセリル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸ブチル、ミリスチン酸ミリスチル、ミリスチン酸セチル、ミリスチン酸イソセチル、ミリスチン酸イソステアリル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリミリスチン酸グリセリル、テトラミリスチン酸ペンタエリスリット、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸オクチル、パルミチン酸セチル、パルミチン酸イソセチル、パルミチン酸2エチルヘキシル、イソパルミチン酸オクチル、トリイソミリスチン酸グリセリル、ステアリン酸エチル、ステアリン酸オクチル、ステアリン酸イソセチル、ステアリン酸ステアリル、ステア

リン酸硬化ヒマシ油、トリステアリン酸グリセリル、ステアリン酸バチル、イソステアリン酸イソプロピル、イソステアリン酸ブチル、イソステアリン酸ヘキシル、イソステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソステアリル、イソステアリン酸硬化ヒマシ油、イソステアリン酸オクチルドデシル、イソステアリン酸バチル、モノイソステアリン酸ポリグリセリル、トリ（イソステアリン酸）グリセリル、トリ（イソステアリン酸）ジグリセリル、トリ（イソステアリン酸）トリメチロールプロパン、テトラ（イソステアリン酸）ポリグリセリル、テトラ（イソステアリン酸）ポリグリセリル、ヒドロキシステアリン酸2エチルヘキシル、オレイン酸エチル、オレイン酸デシル、オレイン酸イソデシル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オレイルドデシル、ジ（オレイン酸）エチレングリコール、トリ（オレイン酸）グリセリル、リシノール酸オクチルドデシル、ヒバリン酸イソデシル、ヒバリン酸イソステアリル、トリベヘニル酸グリセリル、エルカ酸オクチルドデシル、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリン脂肪酸オクチルドデシル、アボガド油脂肪酸エチル、ミンク油脂肪酸エチル、ジペンタエリトリット脂肪酸エステル、ヘキサオキシステアリン酸ジペンタエリトリットなどの高級脂肪酸エステル、ジ（コレステロール、ベヘニル、オクチルドデシルアルコール）-N-ラウロイル-L-グルタミン酸エステル、ジ（ベヘニル、オクチルドデシルアルコール）-N-ラウロイル-L-グルタミン酸エステル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ（フィトステリル・2-オクチルドデシル）等が挙げられる。

【0034】また、合成油性原料としては、シリコーン化合物も用いることができる。シリコーン化合物としては、メチルポリシロキサン、高重合メチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アミノ変性シリコーン、アルキル変性シリコーン、エポキシ変性シリコーン、フッ素変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン、アルコール変性シリコーン、脂肪酸変性シリコーン、アクリル変性シリコーンなどが挙げられ、通常化粧品に用いられるのは、粘度が5センチストークス～1000万センチストークスのものである。

【0035】メチルポリシロキサンおよび高重合メチルポリシロキサンは通常粘度が5～1000万セントストロークが使用できる。また、高重合メチルポリシロキサンは取り扱いを容易にするためにエマルジョンとして使用することもできる。

【0036】メチルフェニルポリシロキサンは通常粘度が10～1000センチストークスのものが使用できる。

【0037】環状ポリシロキサンとしては、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロペンタシロキサン、メチルポリシクロシロキサン等が挙げられる。

【0038】アミノ変性シリコンとしては、アミノエチルアミノプロピルシロキサン・ジメチルシロキサン共重合体エマルジョン等が挙げられる。

【0039】エーテル変性シリコンとしては、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチル（ポリオキシエチレン）シロキサン・メチル（ポリオキシプロピレン）シロキサン共重合体等が挙げられる。

【0040】その他の例としては、メチルハイドロジェンポリシロキサン、ジメチルシロキサン・メチルステアロキシシロキサン共重合体、ジメチルシロキサン・メチルセチルオキシシロキサン共重合体、テトラデカメチルヘキサシロキサン、トリメチルシロキシケイ酸、オクタメチルトリシロキサン、シリコン樹脂、ミリスチルシリコン等が挙げられる。

【0041】また、これらをアルコキシ変性、カルボキシ変性、アルコール変性、脂肪酸変性、フッ素変性、エポキシ変性して使用することもでき、さらに2種以上のシリコンを混合あるいはエマルジョンとして使用することもできる。

【0042】これら、シリコン化合物の市販のものとしては、ジメチルポリシロキサンでは信越化学（株）社製のKF-96Aシリーズ、KF-96Hシリーズ；メチルフェニルポリシロキサンでは信越化学（株）社製のKF-50、KF-53；環状ポリシロキサンの例としては信越化学（株）社製のKF-994、KF-995；ジメチルポリシロキサンとメチル（ポリオキシエチレン）シロキサン共重合体では信越化学（株）社製のKF-351A；トリメチルシロキシケイ酸としては信越化学（株）社製のKF-7312F、メチルハイドロジェンポリシロキサンとしては東芝シリコン（株）社製のTSF484；アミノ変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のXF42-B1989；脂肪酸変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のTSF410；フッ素変性シリコンとしては東芝シリコン（株）社製のFQF501；エポキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3736；アルコキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3722；カルボキシ変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3703、シラノール変性シリコンとしては日本ユニカー（株）社製のFZ-3122等が知られている。

【0043】本発明の化粧料組成物には、上に説明した成分Aおよび／または成分Bならびに成分Cに加えて、本発明の効果を阻害しない範囲で、通常使用される各種添加剤を任意成分として添加することができる。例としては、高分子物質、界面活性剤、脂肪酸、アルコール類、多価アルコール、抽出物、アミノ酸、核酸、ビタミン

ン、酵素、抗炎症剤、殺菌剤、防腐剤、抗酸化剤、紫外線吸収剤、キレート剤、制汗剤、顔料、色素、酸化染料、有機及び無機粉体、pH調整剤、パール化剤、湿潤剤、保湿剤等の化粧品原料基準、化粧品種別配合成分規格、医薬部外品原料規格、日本薬局方、食品添加物公定書記載の原料等が挙げられる。

【0044】本発明の化粧料組成物には、また、パーフルオロポリエーテルを配合することができる。そのようなパーフルオロポリエーテルは、通常分子量が500～20,000のものであり、市販品としてはアウジモント社製フロンブリンHCシリーズ等が挙げられる。

【0045】本発明の化粧料組成物は、これに毛髪のコンドিশョニング性やスタイリング性の付与、各種化粧料の粘度を調整したり、剤型を安定化したり、塗布時ののびを良くしたりする目的で高分子化合物を加えても良い。高分子化合物としては、ポリアクリル酸およびその塩（ナトリウム、カリウム、アンモニウム、トリエタノールアミン、アルギニン、リジン等）、アクリル樹脂、アクリル酸・アクリルアミド・アクリル酸エチル共重合体およびその塩等のアクリル酸誘導体；ポリグルタミン酸およびその塩；ポリアスパラギン酸およびその塩；ヒアルロン酸およびその塩；アルギン酸およびその塩；アクリル酸アルキルエステル・メタクリル酸アルキルエステル・ジアセトン・アセトンアクリルアミド・メタクリル酸共重合体およびその塩、ポリメタクリン酸およびその塩等のメタクリン酸誘導体；酢酸ビニル・クロトン酸共重合体、クロトン酸・酢酸ビニル・ネオデカン酸ビニル共重合体等のクロトン酸誘導体；メトキシエチレン無水マレイン酸共重合体、イソブチレン・マレイン酸共重合体等のマレイン酸誘導体；カルボキシメチルセルロース；カルボキシビニルポリマー、キトサン、部分加水分解キチン、キトサン・d1-ピロリドンカルボン酸塩、サクシニルキトサン、ヒドロキシプロピルキトサン等のキチン誘導体；塩化ジメチルジアリルアンモニウム・アクリルアミド共重合体、ポリ塩化ジメチルメチレンビペリジニウム等の塩化ジメチルジアリルアンモニウム誘導体；塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（トリメチルアンモニオ）プロピル〕ヒドロキシエチルセルロース、塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（ラウリルジメチルアンモニオ）プロピル〕ヒドロキシエチルセルロース等のカチオン化セルロース；塩化O-〔2-ヒドロキシ-3-（トリメチルアンモニオ）プロピル〕グァーガム等のカチオン化グァーガム；メタクリロイルエチルジメチルベタイン・塩化メタクリロイルエチルトリメチルアンモニウム・メタクリル酸メトキシポリエチレングリコール共重合体、メタクリロイルエチルジメチルベタイン・塩化メタクリロイルエチルトリメチルアンモニウム・メタクリル酸2-ヒドロキシエチル共重合体、ビニルピロリドン・N、N-ジメチルアミノエチルメタクリル酸共重合体ジエチル硫酸塩等のメタクリル酸誘導体；ビニルイミダ

ゾリニウムメトクロライド・ビニルピロリドン共重合体、メチルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシアセチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース等のセルロース誘導体；ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリビニルピチラール、ビニルピロリドン・スチレン共重合体、ビニルピロリドン・ヘキサデセン共重合体、酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体、エイコセン・ビニルピロリドン共重合体等のビニル誘導体；アクリル酸ヒドロキシエチル・アクリル酸メトキシエチル共重合体、アクリル酸ヒドロキシエチル・アクリル酸ブチル・アクリル酸メトキシエチル共重合体、アクリル酸アミド・スチレン共重合体、アクリル酸アルキル・スチレン共重合体、アクリル酸オクチルアミド・アクリル酸エステル共重合体、アクリル酸アルキル共重合体、アクリル酸オクチルアミド・アクリル酸ヒドロキシプロピル・メタクリル酸ブチルアミノエチル共重合体等のアクリル酸誘導体；ポリエチレングリコール、高重合ポリエチレングリコール等のエチレングリコール誘導体；ポリグリセリン誘導体；ビニルメチルエーテル・マレイン酸エチル共重合体等のマレイン酸誘導体；アルギン酸プロピレングリコール；ポリアミドエビクロロヒドリン樹脂；グァーガム、ローカストビンガム、クインシード、カラギーナン、ガラクトン、アラビアガム、トラガカントガム、ペクチン、マンナン、デンプン、キサンタンガム、デキストラン、カードラン、サクシノグルカン等の多糖類およびその誘導体；ポリオキシエチレン牛脂アルキルヒドロキシミリスチレンエーテル等の牛脂誘導体、トリイソステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン等のソルビタン誘導体；ポリオキシプロピレンメチルグルコシド、ポリオキシエチレンジオレイン酸メチルグルコシド等の糖誘導体等、アクリルアミド・アクリル酸・塩化ジメチルジアルリルアンモニウム共重合体、アクリル酸・塩化ジメチルジアルリルアンモニウム共重合体等の共重合体；水溶性コラーゲン、加水分解コラーゲンおよびその誘導体（カチオン化等）、加水分解ケラチンおよびその誘導体、加水分解シルクおよびその誘導体、加水分解ゼラチンおよびその誘導体、カゼインおよびその塩、加水分解カゼインおよびその誘導体、加水分解コンキオリンおよびその誘導体、加水分解卵白およびその誘導体、大豆蛋白加水分解物およびその誘導体、加水分解小麦およびその誘導体、加水分解エラスチンおよびその誘導体、アルビミン等の蛋白あるいは加水分解蛋白およびその誘導体；サクシニル化カルボキシメチルキトサン等が挙げられる。これらの高分子化合物は単独又は2種以上を組み合わせ用いてもよい。これらの配合量は特に制限されないが通常0.01～10%の範囲で用いられる。

【0046】本発明の化粧料組成物は、これに殺菌作用を付与するために、殺菌剤を加えても良く、そのような殺菌剤としては、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼ

ニウム、トリクロサン、トリクロロカルバン、グルコン酸クロロヘキシジン、ホルマリン、グルタルアルデヒド、クレゾール、アルキルポリアミノエチルグリシン、エタノール、イソプロパノール等が挙げられ、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、トリクロサン、エタノール、イソプロパノール等が挙げられ、その配合量は特に制限されないが通常0.0001～10%の範囲で用いられる。

【0047】また、本発明に係わる化粧料組成物には、本発明の効果を損なわない範囲において、界面活性剤として、N-長鎖アシル酸性アミノ酸塩やN-長鎖アシル酸性アミノ酸塩などのN-長鎖アシルアミノ酸塩、N-長鎖脂肪酸アシル-N-メチルタウリン塩、アルキルサルフェートおよびそのアルキレンオキシド付加物、脂肪酸アミドエーテルサルフェート、脂肪酸の金属塩および弱塩基塩、スルホコハク酸系界面活性剤、アルキルフォスフェートおよびそのアルキレンオキシド付加物、アルキルエーテルカルボン酸、等のアニオン界面活性剤；グリセリンエーテルおよびそのアルキレンオキシド付加物などのエーテル型界面活性剤、グリセリンエステルおよびそのアルキレンオキシド付加物などのエステル型界面活性剤、ソルビタンエステルおよびそのアルキレンオキシド付加物などのエーテルエステル型界面活性剤、ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル、グリセリンエステル、脂肪酸ポリグリセリンエステル、ソルビタンエステル、ショ糖脂肪酸エステルなどのエステル型界面活性剤、アルキルグルコシド類、硬化ヒマシ油ピログルタミン酸ジエステルおよびそのエチレンオキシド付加物、ならびに脂肪酸アルカノールアミドなどの含窒素型の非イオン性界面活性剤、等の非イオン性界面活性剤；アルキルアンモニウムクロライド、ジアルキルアンモニウムクロライドなどの脂肪族アミン塩、それらの4級アンモニウム塩、ベンザルコニウム塩などの芳香族4級アンモニウム塩、脂肪酸アシルアルギニンエステル、等のカチオン界面活性剤；並びにカルボキシベタインなどのベタイン型界面活性剤、アミノカルボン酸型界面活性剤、イミダゾリン型界面活性剤、等の両性界面活性剤等の各種の界面活性剤も添加することができる。

【0048】また、製品の安定性を向上させるために、金属イオン封鎖剤（キレート剤）、酸化防止剤、防腐剤を加えても良い。金属イオン封鎖剤としてはエチレンジアミン四酢酸（EDTA）、リン酸、クエン酸、L-グルタミン酸二酢酸などのアミノ酸類、アスコルビン酸、コハク酸、グルコン酸、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム等、酸化防止剤としてはトコフェノール類、ジブチルヒドロキシルエーテル、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類、酸化防止助剤であるリン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォスフェイト、フィチン酸等がある。防腐剤としてはパラオキシ安

息香酸エステル類、安息香酸、安息香酸塩等がある。これらの配合量は特に制限されないが通常0.0001～10%の範囲で用いられる。

【0049】本発明の化粧料組成物は、これに着色を目的に色素成分を加えても良く、そのような色素成分としてはカーボンブラック、マンゴバイオレット、バルトバイオレット、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色228号、赤色405号、橙色203号、橙色204号、黄色205号、黄色401号、青色404号、赤色3号、赤色104号、赤色106号、赤色227号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、緑色3号、青色1号、クロロフィル、 β -カロチン等が挙げられ、配合量は任意に決められる。

【0050】本発明の化粧料組成物は、これに保湿性を付与するために保湿剤を加えてもよく、そのような保湿剤としては、ピロリドンカルボン酸およびその塩、ヒアルロン酸およびその塩、トレハロース、グリセリン、

1. 3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、イソプロレングリコール、乳酸塩、部分加水分解キチン、トリメチルグリシン、ソルビトール；加水分解蛋白コラーゲン、加水分解シルク等の加水分解蛋白、ポリアスパラギン酸塩、ポリグルタミン酸塩等のポリアミノ酸塩などが挙げられ、その配合量は特に制限されないが通常0.1～20%の範囲で用いられる。

【0051】さらにその他の任意成分の例としては、美白用薬剤としてアルブチン、コウジ酸、ビタミンC及びその誘導体；血管拡張剤としてセンブリエキス、セファランチン、ビタミンE及びその誘導体、ハイドロキノンおよびその誘導体； γ -オリザノール；局所刺激剤としてトウガラシチンキ、ショウキョウチンキ、ニコチン酸ベンジルエステル；栄養剤としてビタミンA、B1、B2、B6、E及びその誘導体；シスチン、システイン、アセチルシステイン、メチオニン、セリン、ロイシン、トリプトファン、グリシン、アルギニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、グルタミン酸ナトリウム、イソロイシン、アラニン、ヒスチジン、リジン、プロリン、オキシプロリン、フェニルアラニン、スレオニン、チロシン、バリン、 ϵ -アミノカプロン酸、等アミノ酸及びその誘導体；女性ホルモン剤として、エストラジオール、エチニルエストラジオール；毛根賦活剤としてパントテン酸およびその誘導体、アラセンタエキス、アラントイン、感光素301等；抗炎症剤として β -グリチルレチン酸、グリチルリチン酸誘導体、アラントイン、アズレン、 ϵ -アミノカプロン酸、ヒドロコルチゾン、ヒノキチオール等；抗アラスミン剤としてトラネキサム酸；収れん剤として酸化亜鉛、硫酸亜鉛、アラントインヒドロキシアルミニウム、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウ

ム、スルホ石炭酸亜鉛、タンニン酸、クエン酸、乳酸等；天然物由来として、ハマメリス、オドリコ草、白樺、ダイオウ等；清涼化剤としてメントール、カンフル、ホルモンとしてエストラジオールおよびそのエステル誘導体；エストロン、エチニルエストラジオール、コルチゾンおよびそのエステル誘導体；ヒドロコルチゾンおよびそのエステル誘導体、プレドニゾン、プレドニロン等；抗ヒスタミン剤として塩酸ジフェンヒドラミン、マレイン酸クロルフェラミン；角質剥離・溶解剤として、イオウ、サルチル酸、レゾルシン；天然物由来としてカミツレエキス、ユーカリ油エキス；新陳代謝促進、血行促進、創傷治癒等として、ニンジンエキス、アロエ、シコン、リリー、ヘチマ、マロニエ、オオバク、ベニハナ等；紫外線吸収剤として、ベンゾフェノンフェノン誘導体、パラアミノ安息香酸誘導体、メトキシ桂皮酸誘導体、サルチル酸誘導体、ウロカニン酸及びその誘導体、4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、アントラニル酸メチル；天然物由来としてマロニエ、 β -カロチン等；吸血性昆虫（蚊、シラミ、ノミ、ダニなど）の忌避成分として、ジメチルフタレート、2-エチル-1,3-ヘキサジオール、ビスブチレンテトラヒドロフルフラール、N,N-ジエチル-m-トルアミド等；防腐剤としてパラベン誘導体、安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体等が挙げられる。

【0052】上に説明した種々の成分を配合して本発明の化粧料組成物を作成するには、成分Aおよび／または成分Bならびに成分Cを必須成分として使用することを除いては、特別の制限はなく、従来公知の常法に準ずることができる。

【0053】本発明の化粧料組成物における成分Aおよび／または成分Bの配合量は、目的とする製品によって適宜決定され、特に制限されないが、好ましくは0.01～50重量%であり、特に好ましくは0.1～20重量%である。0.01重量%未満では本発明の効果が十分発揮できない場合がある。

【0054】本発明の化粧料組成物における成分Cの配合量は、目的とする製品によって適宜決定され、特に制限されないが、通常、0.01～50重量%の範囲で用いられる。

【0055】ただし、成分Aおよび／または成分Bと成分Cとの比率は、通常、(成分Aおよび／または成分B)／(成分C)=100/0.1以上であり、好ましくは100/1以上である。100/0.1未満の場合、本発明の効果が十分発揮されない場合がある。

【0056】本発明の化粧料組成物は、その剤型には特別の制限がなく、乳化系、溶液系、可溶性系、ゲル状、粉末分散系、水-油二層系、水-油-粉末三層系等、どのような剤型であっても構わない。

【0057】本発明の化粧料組成物は、その用途にも特

別の制限はなく、シャンプー、リンス、リンスインシャンプー、コンディショニングシャンプー、ヘアローション、ヘアコンディショナー、ヘアトリートメント、ヘアクリーム、ヘアスプレー、ヘアリキッド、ヘアワックス、ヘアウォーター、ヘアスタイリングジェル、ヘアスタイリング剤、パーマ液、ヘアカラー、酸性ヘアカラー、ヘアマニキュア、化粧水、乳液、洗顔料、口腔洗浄剤、メイク落とし、クレンジングローション、エモリエントローション、ナリッシュクリーム、エモリエントクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、ボディシャンプー、ハンドソープ、ひげ剃り用クリーム、日焼け化粧料、デオドラントパウダー、デオドラントローション、デオドラントスプレー、メイク落としジェル、モイスチャージェル、保湿エッセンス、紫外線防止エッセンス、シェービングフォーム、白粉、ファンデーション、口紅、頬紅、アイライナー、アイシャドウ、眉墨、マスカラ、浴剤等の各種化粧料として広範に用いることができる。

【0058】

【実施例】以下、比較例および実施例により本発明を更に説明する。

【0059】比較例1～4および実施例1～5（リンス）

下記第1表に示す組成（純分重量％表示、総量100％）のリンスを常法により調製し、専門パネラー10名に市販のシャンプーによる洗髪後、これらリンスを使用させ、（a）塗布時のべたつき感、（b）乾燥後のべたつき感、（c）櫛通りの良さ、および（d）頭髮の滑らかさについて官能評価を行った。その結果も、同表に併

示する。

【0060】ここに、官能評価は、下に示す評価基準による平均値を算出し、平均値が1.5～2.0の場合を非常に良好（◎）、1.0～1.5未満の場合を良好（○）、0.5～1.0未満の場合を普通（△）、そして-1～0.5未満の場合を不良（×）として行った。

【0061】＜評価基準＞

（a）塗布時のべたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0062】（b）乾燥後のべたつき感

2：べたつき感がない

1：べたつき感があまりない

0：べたつき感がややある

-1：べたつき感がある

【0063】（c）櫛通りの良さ

2：櫛通りが良い

1：やや櫛通りがよい

0：普通

-1：櫛通りが悪い

【0064】（d）滑らかさ

2：滑らか

1：やや滑らか

0：普通

-1：滑らかでない

【0065】

【表1】

成分	第1表: リンス				実施例				
	比較例				1	2	3	4	5
成分AまたはB									
N-ラウロイルサルコシン					1.0				
イソプロピルエステル						1.0			
N-コイルサルコシン							1.0		
イソプロピルエステル								1.0	
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル									1.0
N-ラウロイルアラニン									
イソプロピルエステル									
N-コイルグルタミン酸									
イソプロピルエステル									
成分C									
ミリスチン酸イソセチル	0.5	0.5			0.5	0.5			0.5
ホホバ油		5.0				5.0			
ステアリン酸イソセチル			10				10		
ペヘニルアルコール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
マカデミアンナッツ油	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
メチルポリシロキサン(*1)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
メチルポリシロキサン(*2)			1.0	1.0			1.0	1.0	
ポリエーテル変性シリコーン(*3)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他の成分									
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	1.0		1.0
加水分解コラーゲン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
加水分解シルク	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
エチレンジアミン	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
四酢酸ナトリウム塩									
トコフェロール	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ジブチルヒドロキシトルエン	0.2	0.2			0.2	0.2			
クエン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
安息香酸ナトリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
塩化ベンザルコニウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
塗布時のべたつき感	×	×	△	×	◎	◎	◎	◎	◎
乾燥後のべたつき感	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎
ぬめりの良さ	△	△	△	×	◎	◎	◎	◎	◎
滑らかさ	△	△	△	×	◎	◎	◎	◎	◎

(*1) 信越化学工業株式会社 EF-96A (粘度10,000cSt)

(*2) 信越化学工業株式会社 EF-9937

(*3) 信越化学工業株式会社 EF-6012 (粘度1,800cSt)

【0066】比較例5～7および実施例6～8 (乳液)

下記第2表に示す組成 (純分重量%表示、総量100%) の乳液を常法により調製し、専門パネラー10名にこれら乳液を使用させ、(a)べたつき感、(b)なめらかさ、(c)のびの良さ、および(d)なじみの良さについて官能評価を行った。その結果も同表に示す。

【0067】ここに、官能評価は、下に示す評価基準による平均値を算出し、平均値が1.5～2.0の場合を非常に良好(◎)、1.0～1.5未満の場合を良好(○)、0.5～1.0未満の場合を普通(△)、そして-1～0.5未満の場合を不良(×)として行った。

【0068】<評価基準>

(a) 塗布時のべたつき感、

2:べたつき感がない

1:べたつき感があまりない

0:べたつき感がややある

-1:べたつき感がある

【0069】(b) なめらかさ

2:非常に良好

1:良好

0:普通

-1:悪い

【0070】(c) のびの良さ

2:非常に良好

1:良好

0:普通

-1:悪い

【0071】(d) なじみの良さ

2:非常に良好

1:良好

0:普通

-1:悪い

【0072】

【表2】

第2表：乳液

成分	比較例			実施例		
	5	6	7	8	9	10
成分AまたはB						
N-ラウロイルサルコシン				3.0		
イソプロピルエステル						
N-コイルアラニン					1.0	2.0
イソプロピルエステル						
成分C						
マイクロクリスタリンワックス	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ミツロウ	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
ラノリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
ツバキ油	0.5			0.5		
流動パラフィン	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
スクワラン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
コメヌカ油	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
コメ胚芽油	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
メチルポリシロキサン(*1)	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2
その他の成分						
塩化ステアリルトリメチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
アンモニウム						
1,3-ブチレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
セスキオレイン酸ソルビタン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
オレイン酸ポリオキシエチレン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(20)ソルビタン						
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余
べたつき感の無さ	×	×	×	○	○	○
なめらかさ	△	△	△	◎	◎	◎
のびのよさ	△	△	△	◎	◎	◎
なじみのよさ	△	△	△	◎	◎	◎

(*1) 信越化学工業株式会社 KF-95A (粘度10,000cSt)

【0073】実施例9～17 (シャンプー)

下記第3表にシャンプーの配合例を9例掲げる。

【0074】

【表3】

第3表：シャンプー

成分	実施例								
	9	10	11	12	13	14	15	16	17
N-ラウロイルサルコシン	1								
イソプロピルエステル									
N-コイルアラニン		1	2					2	
イソプロピルエステル									
N-コイルグルタミン酸				2					
イソプロピルジエステル									
N-ラウロイルグルタミン酸					2				
イソプロピルジエステル									
N-ラウロイルグルタミン酸						2			
-モノプロピルジエステル									
N-ラウロイルアスパラギン酸							2		
イソプロピルジエステル									
N-硬脂酸牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸								0.1	2
イソプロピルジエステル									
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム(*1)	10	10	10	10	10	10	10	10	10
ポリエーテル酸性シリコーン(*2)	1	2	0.5	1	2	0.5	0.5	0.5	0.5
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3	3	3	3	3	3	3	3	3
カチオン化セルローズ(*3)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
グリセリン	2	2	2	2	2	2	2	2	2
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 花王株式会社 エマール20C

(*2) 信越化学工業株式会社 KF-6012 (粘度1,600cSt)

(*3) ライオン株式会社 レオガードGP

【0075】実施例18～30 (リンス)

下記第4表にリンスの配合例を13例掲げる。

【0076】

【表4】

第4表：リンス

成分	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
N-ラウロイルアラニン-N-ト-ブチルエステル	1.0												
N-オクタノイルグリシン-N-プロピルエステル		1.0									0.5		
N-ラウロイルアラニン-N-ブチルエステル				1.0	1.0								
N-ミリスチルグリシン-N-ブチルエステル					0.1	1.0							10.0
N-ラウロイルアラニン-N-プロピルエステル							1.0						
N-ラウロイルアラニン-N-プロピルエステル								1.0			0.5	0.5	
N-ラウロイルアラニン-N-プロピルエステル	1.0									1.0			
N-コイルグリタミル-N-ブチルエステル													
塩化ステアリン酸トリメチルアンモニウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
メチルポリシロキサン(*1)	0.5	0.5	1.5	5.0	15	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
高重合メチルポリシロキサン、 腐蝕シロキサン混合物(*2)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリン酸イソセチル	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
セトステアリン酸アルニール	0.1	0.6	1.5	0.2	0.2	0.2	1	1	1	1	1	1	1
レアルギニン	0.1	0.6	1.5	0.2	0.2	0.2	1	1	1	1	1	1	1
アスコルビン酸	0.1	0.6	1.5	0.2	0.2	0.2	1	1	1	1	1	1	1
EDTA											0.2	0.2	0.5
ポリリン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1	0.1	0.1			
グルタミン酸二酢酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1								
ジブチルヒドロキシトルエン						0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
塩化ベンザルコニウム	0.5	0.5	1.5	5.0	15	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
トリクロリン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
エタノール	0.2	0.2	0.2	0.1	0.5								
パラオキシ安息香酸エステル													
安息香酸塩													
グルタミン酸二酢酸	0.1	0.1	0.1	0.1			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業株式会社 KF-96A (粘度10,000cSt)

(*2) 日本ユニカカー (株) FJ-3115

【0077】実施例31~39 (リンス)

下記第5表にリンスの配合例を9例掲げる。

【0078】

【表5】

第5表: リンス

成分	実施例									
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		1.0	
N-ココイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル					1.0		1.0			
N-ラウロイルグルタミン酸- ヒ-ブチルジエステル					1.0		1.0			
N-ラウロイルアスパラギン酸 イソプロピルジエステル	1.0		1.0					2.0		
N-ラウロイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル		1.0		1.0	1.0			1.0	1.0	
N-硬化牛脂脂肪酸アシルグルタミン酸 イソプロピルジエステル	1.0									
メチルポリシクロシロキサン(*1)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
ポリエーテル変性シリコーン(*2)					1.0					
オクタメチルシクロテトラシロキサン (*3)						1.0				
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
高重合メチルポリシロキサン(*4)	0.5	5.0	10					1.0		
メチルフェニルシリコーン(*5)							1.0			
アミノ変性シリコーンエマルジョン(*6)									1.0	
高重合メチルシロキサン/デシメチル シクロペンタシロキサン(*7)						20				
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
セタノール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
L-グルタミン酸ナトリウム	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
ソルビトール							2	2	2	
トリメチルグリシン					2	2				
加水分解蛋白コラーゲン	0.5	2	2							
ポリグルタミン酸ナトリウム				2						
加水分解シルク								1		
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(*1) 信越化学工業株式会社 IX-9937

(*2) 信越化学工業株式会社 IX-6012 (粘度1,600cSt)

(*3) 信越化学工業株式会社 IX-994

(*4) 信越化学工業株式会社 IX-98B(10万)

(*5) 東レ・ダウコーニング・シリコーン株式会社 SE558

(*6) 東レ・ダウコーニング・シリコーン株式会社 SM8702C

(*7) 日本ユニカー株式会社 PZ-4168

【0079】実施例40～47 (リンス)

下記第6表にリンスの配合例を8例掲げる。

【0080】

【表6】

第6表：リンス

成分	実施例								
	40	41	42	43	44	45	46	47	
N-ラウロイルサルチシンイソ プロピルエステル	1.0								
N-ココイルアラニン イソプロピルエステル		0.5	5.0	10	1.0	1.0	1.0	1.0	
塩化ステアリルトリメチル アンモニウム	1.0	0.5	5.0	10	1.0	1.0	1.0	1.0	
メチルポリシクロ シロキサン(*1)							2.0	3.0	
高重合メチルポリシロ キサン(*2)					2.0	6.0	5.0	3.0	
アミノ変性シリコーン エマルジョン(*3)	1.0	1.0	1.0	1.0			3.0	3.0	
パーフルオロポリエーテル(*4)	1.0								
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量		
L-アルギニン								適量	
フィトステロール	0.2	0.2							
12-ヒドロキシステアリン酸		0.5							
ステアロイル加水分解 コラーゲンナトリウム			0.5						
加水分解クラチンエチル				0.5	0.2				
加水分解コムギ末						0.5	0.5		
アロエ抽出物								0.5	
カゼイン								0.5	
卵黄リン脂質		0.2							
大豆リン脂質			0.2						
プラセンタエキス				0.2	0.2				
植物性セラミド蒸留液(*6)						0.2	0.2		
ユズエキス								0.2	
ユーカリ水								0.2	
トレハロース	3						0.2		
エラグ酸		1.5							
ロズマリン酸			1.5						
カテキン				1.5					
安息香酸塩	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	

(*1) 信越化学工業株式会社 KF 9937

(*2) 信越化学工業株式会社 KF96H(10万)

(*3) 東レ・ダウコーニング・シリコーン株式会社 SM8702C

(*4) アウジモント社 FOMBLIN EC/25

(*5) 純粋ケミカル セラミドコンプレックスCLB(P)

【0081】実施例48～51（リンス）

【0082】

下記第7表にリンスの配合例を4例掲げる。

【表7】

第7表: リンス

成分	実施例			
	48	49	50	51
N-ラウロイルザルコシン		0.1		
イソプロピルエステル				
N-ココイルザルコシン			0.4	
イソプロピルエステル				
N-ラウロイル-N-メチル-β-アラニンイソプロピルエステル		1.0		
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル	1.0		1.0	1.0
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル	1.0			1.0
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル	0.1	0.1	0.1	0.1
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル	0.1	0.1	0.1	0.1
ミリスチン酸イソセチル			0.5	0.5
ホホバ油				
ステアリン酸イソセチル		10.0		
ペヘニルアルコール	0.5	0.5	0.5	0.5
マカデミアンナッツ油	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0
メチルポリシロキサン(*1)		1.0	1.0	
メチルポリシクロシロキサン(*2)	1.0	1.0	1.0	1.0
ポリエーテル変性シリコーン(*3)	1.0			1.0
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.5	1.0		0.5
加水分解コラーゲン	0.5	0.5	0.5	0.5
加水分解シルク		0.1	0.1	0.1
香料	適量	適量	適量	適量
エチレンジアミン四酢酸ナトリウム塩	0.2	0.2	0.2	0.2
トコフェロール	0.2	0.2	0.2	0.2
ジブチルヒドロキシトルエン				
クエン酸	適量	適量	適量	適量
安息香酸ナトリウム	0.2	0.2	0.2	0.2
塩化ベンザルコニウム	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業㈱ KF-98A (粘度10,000cSt)

(*2) 信越化学工業㈱ KF-9937

(*3) 信越化学工業㈱ KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0083】実施例52～59 (トリートメント)
 下記第8表にトリートメントの配合例を8例掲げる。

【0084】
 【表8】

第9表：トリートメント

成分	実施例							
	52	53	54	55	56	57	58	59
N-コイルザルコシン	1.0	1.0	1.0			5	10	1.0
イソプロピルエステル								
N-ラウロイル-N-エチル-β-アラニン					3.0			
イソプロピルエステル								
N-ラウロイルアラニン		1.0	1.0	0.6				
イソプロピルエステル								
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
アルデヒド(※1)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
メチルポリシロキサン(※2)	2.0					10	2.0	2.0
ポリマーテル変性シリコーン(※3)		2.0					2.0	
オクタメチルシクロテトラシロキサン(※4)			2.0				2.0	
高重合メチルポリシロキサン(※5)	0.2	0.6					2.0	
メチルフェニルシリコーン(※6)				5.0			1.0	
アミノ変性シリコーンエマルジョン(※7)					1.0		1.0	
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリルアルコール	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
ローカストビングム	0.1							
クインスード		0.1						
カラギーナン			0.1					
ガラクトン			0.1					
アラビアガム				0.1				
トラガカントガム					0.1			
ペクチン						0.1		
マンナン							0.1	
デンプン								0.1
キサンタンガム								0.1
デキストラン	0.1							
カードラン		0.1						
サクシノグルカン			0.1					
トリイソステアリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン				0.1				
L-グルタミン酸	適量			適量	適量			
乳酸(90%)		適量				適量		
DL-ピロリドンカルボン酸			適量				適量	
グリコール酸								適量
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

- (※1) 味の素(株) CAE
 (※2) 信越化学工業(株) KF-96A (粘度10,000cSt)
 (※3) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)
 (※4) 信越化学工業(株) KF994
 (※5) 信越化学工業(株) KF96H(10万)
 (※6) 東レ・ダウコーニング・シリコーン(株) SH558
 (※7) 東レ・ダウコーニング・シリコーン(株) SH8702C

【0085】実施例60～65(トリートメント)
 下記第9表にトリートメントの配合例を6例掲げる。

【0086】
 【表9】

第9表：トリートメント

成分	実施例					
	60	61	62	63	64	65
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル	0.10					
N-ココイルアラニン イソプロピルエステル		0.01	1.00			
N-ココイルグルタミン酸 イソプロピルジエステル				1.00		
N-ラウロイルグルタミン酸- ϵ - -ブチルジエステル					1.00	
N-ラウロイルアスパラギン酸 イソプロピルジエステル						1.00
塩化ステアリルトリメチル アンモニウム	0.01	0.01	1.00	0.01	1.00	1.00
ステアリン酸ジエチルアミノ エチルアミド	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
ココイルアルギニンエチルエステル-DL -ピロリドンカルボン酸塩(*1)	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
ポリエーテル変性シリコーン(*2)	0.02	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
カルボキシ変性シリコーン(*3)			0.02			
ポリオキシエチレンジオレイン酸 メチルグルコシド				0.1		
加水分解ゼラチン	3.0					
加水分解コンキオリン		0.1				
加水分解エラスチン			0.1			
塩化O-[2-ヒドロキシ-3- (トリメチルアンモニオ)プロピル] ヒドロキシエチルセルロース				0.1		
ビニルピロリドン・N,N-ジメチル アミノエチルメタクリル酸共重合体 ジエチル硫黄塩					0.1	0.1
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 味の素(株) CAS

(*2) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

(*3) 日本ユニカー(株) FZ-3703

【0087】実施例66～71 (ヘアクリーム)

【0088】

下記第10表にヘアクリームの配合例を6例掲げる。

【表10】

第10表：ヘアクリーム

成分	実施例					
	66	67	68	69	70	71
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル		0.1	1.0	0.1	0.1	0.1
N-ココイルサルコシンイソプロピルエステル		1.0				
N-ラウロイル-N-メチル- β - アラニンイソプロピルエステル			1.0			
N-ラウロイルアラニンイソプロピルエステル					1.0	
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル						1.0
N-ラウロイルアラニン- ϵ - -ブチルエステル	0.1					
N-ラウロイルグルタミン酸- ϵ - -ブチルジエステル				0.1		
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	0.1	0.1	0.1		0.1	0.1
メチルポリシロキサン(*1)	0.2	0.2	0.2			0.2
メチルポリシクロシロキサン(*2)				0.5		
ポリエーテル変性シリコーン(*3)					1.0	
アルキル変性直鎖状シロキサン(*4)			5.0			5.0
直鎖状ポリエーテル変性シリコーン(*5)	5.0		2.0	2.0	2.0	
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
L-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量
水溶性コラーゲン	0.1					
酢酸ビニル・ビニルピロリドン共重合体		0.1				
アクリル酸ヒドロキシエチル・アクリル酸 メトキシエチル共重合体			0.1			
ビニルメチルエーテル・マレイン酸エチル 共重合体				0.1		
アルギン酸プロピレングリコール グアーガム					0.1	0.1
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業(株) KF-96A-5 (粘度6cSt)

(*2) 信越化学工業(株) KF-8837

(*3) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

(*4) 日本ユニカー(株) FZ-3105

(*5) 日本ユニカー(株) ABN SILWET

【0089】実施例72～79 (ヘアクリーム)

【0090】

下記第11表にヘアクリームの配合例を8例掲げる。

【表11】

第11表：ヘアクリーム

成分	実施例							
	72	73	74	75	76	77	78	79
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル	0.1							
N-ココイルサルコシニソプロピルエステル		0.1						
N-ラウロイルアラニニソプロピルエステル			0.1					
N-7コイルアラニニソプロピルエステル				0.1				
N-ラウロイルアラニニ-イソプロピルエステル					0.1			
N-ココイルイソロイシニソプロピルエステル								5.0
N-ココイルアシルグルタミン酸 イソプロピルジエステル						0.1		
N-ラウロイルアスパラギン酸 イソプロピルジエステル							0.1	
塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ステアリン酸ジエチルアミノエチルアミド	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ココイルアルギニンエチルエステル-DL- ピロリドンカルボン酸塩(*1)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
メチルポリシロキサン(*2)	0.2							
メチルポリシクロシロキサン(*3)		0.2						
ポリマー化シリコン(*4)			0.2					
オクタメチルシクロテトラシロキサン(*5)			0.2					
高重合メチルポリシロキサン(*6)				0.2				
メチルフェニルシリコーン(*7)					0.2	0.2	0.2	0.2
アミノ変性シリコーン(*8)	0.5							
ミリスチン酸イソセチル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
セトステアリルアルコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ポリアクリル酸カリウム	0.5							
アクリル樹脂		0.5						
キトサン			0.5					
サクシニルキトサン				0.1				
塩化ジメチルジアリルアンモニウム・ アクリルアミド共重合体				0.1				
メチルセルロース					0.3			
ヒドロキシプロピルメチルセルロース						0.3		
ヒドロキシエチルセルロース							0.3	
ポリビニルピロリドン								0.3
ポリビニルピチラール				0.3				
アクリルアミド・アクリル酸・塩化ジメチル ジアリルアンモニウム共重合体				0.1				
レ-グルタミン酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

- (*1) 味の素(株) CAK
 (*2) 信越化学工業(株) KF-96A-10 (粘度10cSt)
 (*3) 信越化学工業(株) KY-9937
 (*4) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)
 (*5) 信越化学工業(株) KF994
 (*6) 信越化学工業(株) KF96E(10万)
 (*7) 東レ・ダウコーニング・シリコーン(株) S3658
 (*8) 日本ユニカー(株) RZ-3760

【0091】実施例80～86(乳液)

下記第12表に乳液の配合例を7例掲げる。

【0092】

【表12】

第12表：乳液

成分	実施例							
	80	81	82	83	84	85	86	
N-ラウロイルサルコシン	0.1							
イソプロピルエステル								
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		0.0	0.1	1.0				
N-ココイルグルタミン酸					1.0			
イソプロピルジエステル								
N-ラウロイルグルタミン酸- γ -ブチルジエステル						1.0		
N-ラウロイルアスパラギン酸								1.0
イソプロピルジエステル								
ポリエーテル変性シリコーン(*1)	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	
ポリエーテル変性シリコーン(*2)	0.1	0.01						
モノステアリン酸グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
モノラウリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
固形パラフィン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ミツロウ	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
ワセリン	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
流動パラフィン	41.0	41.0	41.0	41.0	41.0	41.0	41.0	41.0
ラベンダー油	0.5							4.0
ローマカミツレ油		0.5						
ローズマリー油			0.5					2.0
1,3-ブチレングリコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ホシ砂	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

(*2) 信越化学工業(株) KF-352A

【0093】実施例87～90 (乳液)

【0094】

下記第13表に乳液の配合例を4例掲げる。

【表13】

第13表：乳液

成分	実施例			
	87	88	89	90
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	2.0	2.0	2.0	
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル	0.1	0.1	0.1	1.0
ココイルアルギニンエチルエステル-DL-ピロリドンカルボン酸塩(*1)	0.1	0.1	0.1	
ポリエーテル変性シリコーン(*2)	0.1	0.1	0.6	0.1
ポリオキシエチレン(10)セチルエーテル	2.0	2.0	2.0	2.0
オクタメチルシクロテトラシロキサン(*3)	1.0	1.0	1.0	
メチルポリシクロテトラシロキサン(*4)	0.1	0.1	0.1	
セトステアリン酸グリセリル	2.0	2.0	2.0	2.0
ステアリン酸	3.0	3.0	3.0	3.0
セタノール	1.0	1.0	1.0	1.0
アミノ酸系油剤(*5)	3.0	3.0	3.0	3.0
流動パラフィン	5.0	5.0	5.0	5.0
2-エチルヘキシルステアレート	3.0	3.0	3.0	3.0
トリエタノールアミン	1.0	1.0	1.0	1.0
尿素	0.2			
グルコサミン		0.2		
クレアチン			0.2	
ビタミンC				0.2
水	残余	残余	残余	残余

(*1) 味の素(株) CAB

(*2) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

(*3) 東芝シリコーン(株) TSF404

(*4) 東芝シリコーン(株) TSF4046

(*5) 味の素(株) エルデュウCL-202

【0095】実施例91～94 (乳液)

【0096】

下記第14表に乳液の配合例を4例掲げる。

【表14】

第14表：乳液

成分	実施例			
	91	92	93	94
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	0.10			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		0.01	0.10	1.00
ポリエーテル変性シリコーン(*1)	0.10	0.10	0.30	0.10
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(16)グリセリル	1.0	1.0	1.0	1.0
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン	1.0	1.0	1.0	1.0
モノステアリン酸ポリオキシエチレン(10)ソルビタン	1.0	1.0	1.0	1.0
コレステロール	0.5			
フォスファチジルセリン		0.5		
フォスファチジルエタノールアミン			0.5	
フォスファチジルコリン				0.5
ユーカリ油	0.2			
ハトムギ油		2.0		
ブドウ種子油			2.5	
アルモンド油				1.0
トウモロコシ油	0.5			
ローズヒップ油	0.5			0.5
プロピレングリコール	1.0	1.0	1.0	1.0
水	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業(株) KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0097】実施例95～98 (クレンジングクリー
ム)

【0098】

下記第15表にクレンジングクリームの配合例を4例掲

【表15】

第15表：クレンジングクリーム

成分	実施例			
	95	96	97	98
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	10.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		10.0		
N-ココイルアシルグルタミン塩			10.0	
イソプロピルジエステル				10.0
N-ラウロイルアスパラギン酸				
イソプロピルジエステル				
乳酸セチル	0.5			
アジピン酸ジイソプロピル		0.50		
イソノナン酸イソノニル			0.5	
アボガド油脂肪酸エチル				0.5
α-アミノカプロン酸	0.2			
ヒドロコルチゾン			0.2	
ヒノキチオール				0.2
メチルポリシロキサン(*1)	3.0	3.0	3.0	3.0
アルキル変性シリコーン(*2)	0.01		0.02	
スクワラン	30.4	30.4	30.4	30.4
トリオクタン酸グリセリル	27.0	27.0	27.0	27.0
ポリオキシエチレン(30)	1.5	1.5	1.5	1.5
グリセリルトリイソステアレート				
ブチルパラベン	0.1	0.1	0.1	0.1
ステアロイルグルタミン酸ナトリウム	4.0	4.0	4.0	4.0
水	23.8	23.8	23.8	23.8
メチルパラベン	0.1	0.1	0.1	0.1

(*1) 東芝シリコーン(株) TSF451-100A

(*2) 東芝シリコーン(株) XF42-A3161

【0099】実施例99～102 (口紅)

【0100】

下記第16表に口紅の配合例を4例掲げる。

【表16】

第16表: ロール

成分	実施例			
	99	100	101	102
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル	5.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		5.0		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル			5.0	
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル				5.0
メチルポリシロキサン(*1)	3.0	3.0	3.0	3.0
ミツロウ	15.0	15.0	15.0	15.0
セレン	24.0	24.0	24.0	24.0
カルナウバロウ	8.0	8.0	8.0	8.0
流動パラフィン	22.0	22.0	22.0	22.0
ヒマシ油	21.0	21.0	21.0	21.0
顔料	1.0	1.0	1.0	1.0
香料	1.0	1.0	1.0	1.0

(*1) 信越化学工業株式会社 KF-96A (粘度10,000cSt)

【0101】実施例103～104 (ひげ剃り用ローション)

下記第17表にひげ剃り用ローションの配合例を2例掲げる。

【0102】

【表17】

第17表: ひげ剃り用ローション

成分	実施例	
	103	104
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル		0.5
N-ココイルロイシンイソプロピルエステル	0.5	
タンニン酸	1.0	1.0
エタノール	83.5	83.5
ミリスチン酸イソプロピル	7.0	7.0
パルミチン酸イソプロピル	8.0	8.0

【0103】実施例105 (パーマ1剤)

下記第18表にパーマ1剤の配合例を1例掲げる。

【0104】

【表18】

第18表: パーマ1剤

成分	実施例 105
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル	1
L-システイン	1
チオグリコール酸アンモニウム	5
モノエタノールアミン	1.2
塩アンモニア水	0.4
パルミチン酸イソプロピル	1
セトステアリアルアルコール	2

【0105】実施例106～110 (浴用剤)

下記第19表に浴用剤の配合例を5例掲げる。

【0106】

【表19】

第19表: 浴用剤

成分	実施例				
	106	107	108	109	110
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル	15.0				
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル		15.0			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル			15.0		
N-ラウロイルグルタミン酸- γ -ブチルジエステル				15.0	
N-ラウロイルアスパラギン酸イソプロピルジエステル					15.0
ポリエーテル酸性シリコーン(*1)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
スクワラン	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
ポリオキシエチレン(30)モノステアレート	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
ポリオキシエチレン(10)ステアリアルエーテル	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
トリメチルグリシン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
アロエエキス	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
アルブチン				1.0	1.0
β -グリチルレチン酸	0.5				
香料	適量	適量	適量	適量	適量
色素	適量	適量	適量	適量	適量
防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 信越化学工業株式会社 KF-6012 (粘度1,600cSt)

【0107】実施例111 (パック)

下記第20表にパックの配合例を1例掲げる。

【0108】

【表20】

第20表: パック

成分	実施例 111
ポリビニルアルコール(35～45cps)	8.0
ポリビニルアルコール(20～25cps)	7.0
エタノール	20.0
N-ラウロイルサルコシニソプロピルエステル	0.5
N-ココイルロイシンイソプロピルエステル	0.1
モノラウリン酸ポリオキシエチレン(20)ソルビタン	1.0
ラノリン	0.1
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル	0.1
精製水	残余

【0109】実施例112～117 (W/Oスキングリ)

ーム)

【0110】

下記第21表にW/Oスキนครームの配合例を6例掲
げる。

【表21】

第21表: W/Oスキนครーム

成分	実施例					
	112	113	114	115	116	117
N-ラウロイルサルコシン	3.0					
イソプロピルエステル		3.0				
N-エチルヘキシルサルコシン						
ノロビルエステル			3.0			
N-オクタノイルバリンイソプロピルエステル				3.0		
N-ココイル-N-メチル-β-アラニン					3.0	
イソプロピルエステル						3.0
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル						
N-ココイルロイシンイソプロピルエステル						
デトライソステアリン酸ジグリセリル	5.0	1.0	1.0	1.0		
ジイソステアリン酸ジグリセリル		1.0	1.0	1.0		
デカオレイン酸デカグリセリン		1.0	1.0	1.0		1.0
POE (6) 硬化ヒマシ油		1.0	1.0	1.0	1.0	
モノイソステアレート						
エーテル変成シリコン (*1)		1.0	1.0	1.0	4.0	1.0
ショ糖エルカ酸エステル (*2)		1.0	1.0	1.0	1.0	4.0
スクワラン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
軽質イソパラフィン		1.0				
ひまわり油		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
アボガド油		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
グレープシードオイル		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
オリブオイル		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
流動パラフィン (軽質)		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
液状ラノリン		0.1			0.1	
グリシン	0.1					
DL-アラニン		0.1				
L-プロリン			0.1			
L-メチオニン				0.1		
L-スレオニン					0.1	
L-ロイシン						0.1
L-イソロイシン	0.1					
L-セリン		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
1,3-ブチレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
プロピレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
ジプロピレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
濃グリセリン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
酸化防止剤、殺菌剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量
水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 日本エマルジョン (株) エマレックスSN-5050K

(*2) 三菱フーズ (株) リョート-ER-190

【0111】実施例118~129 (プレストパウダー 配合例を12例掲げる。
型ファンデーション)

【0112】

下記第22表にプレストパウダー型ファンデーションの

【表22】

第22表：プレストパウダー型ファンデーション

成分	実施例														
	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129			
N-ラウロイルアラニン- α -ブチルエステル	1.0														
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		1.0													
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			1.0												
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル				1.0											
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル					1.0										
N-ココイルサルコシンオクチルエステル						1.0									
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							1.0								
N-ラウロイルサルコシンプロピルエステル								1.0							
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル									1.0						
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル										1.0					
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル												1.0			
N-アスパラギン酸イソプロピルジエステル													1.0		
タルク	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0
微粒子酸化チタン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
コロイドカオリン	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
セリサイト	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
流動パラフィン	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
ジメチルシクロペンタシロキサン	2.0					1.0									
ジメチルポリシロキサン (100cp)		2.0				1.0	1.0						1.0		
オクタメチルシクロテトラシロキサン			2.0											1.0	
メチルフェニルポリシロキサン				2.0			1.0	1.0					1.0		1.0
ポリオキシエチレン-メチルポリシロキサン					2.0				1.0					1.0	
セスキオレイン酸ソルビタン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
オクタン酸イソセチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
イソステアリン酸	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0

【0113】実施例130～141（プレストパウダー型ファンデーション）

る。

【0114】

下記第23表にプレストパウダーの配合例を12例掲げ

【表23】

第23表：プレストパウダー

成分	実施例														
	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141			
N-ラウロイルアラニン- α -ブチルエステル	3.0														
N-ココイルサルコシンイソプロピルエステル		3.0													
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			3.0												
N-ラウロイルイソノニルグリシンオクチルエステル				3.0											
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル					3.0										
N-ココイルサルコシンオクチルエステル						3.0									
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							3.0								
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル								3.0							
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル									3.0						
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル										3.0					
N-アスパラギン酸イソプロピルジエステル											3.0				
N-ココイルグルタミン酸- α -ブチルジエステル												3.0			
カオリン	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
酸化チタン	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
セリサイト	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
ステアリン酸マグネシウム	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
軽質流動イソパラフィン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
流動パラフィン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ラウリン酸イソプロピル	0.5														
アミノ酸系油剤(*1)															
アミノ酸系油剤(*2)		0.5					0.3	0.3	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
アミノ酸系油剤(*3)			0.5					0.2							
アミノ酸系ノニオン界面活性剤(*4)				0.5					0.2						
モノイソステアリン酸ソルビタン	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
酸化防止剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
タルク	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*1) 味の素(株) エルデュウCL-202

(*3) 日本エマルジョン(株) アミテルLG00-2

(*2) 味の素(株) エルデュウPS

(*4) 日本エマルジョン(株) ビロテルCF1-40

【0115】実施例142～153（プレストパウダー型ファンデーション）

配合例を12例掲げる。

【0116】

下記第24表にプレストパウダー型ファンデーションの

【表24】

第24表: プレストパウダー型ファンデーション

成分	第24表：プレストパウダー型ファンデーション												
	実施例												
N-ラウロイルアラニン- ϵ -オクチルエステル	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル	3.0												
N-ラウロイルアラニンエチルエステル		3.0											
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル			3.0										
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル				3.0									
N-ココイルサルコシンオクチルエステル					3.0								
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル						3.0							
N-ラウロイルサルコシンプロピルエステル							3.0						
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル								3.0					
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル									3.0				
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル										3.0			
N-アスパラギン酸イソプロピルジエステル											3.0		
タルク	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	47.5	
セリサイト	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	
強粒子酸化チタン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
ナイロンパウダー	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
流動パラフィン	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	
ミリスチン酸オクチルデシル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
ミリスチン酸オクチルデシル	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	
イソステアリン酸ソルビタン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
ステアリン酸亜鉛	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
N-ラウロイル-L-リジン	3.0						3.0						
N-ラウロイル-L-リジンで表面処理したタルク		3.0						3.0					
シリコンで表面処理した酸化チタン			3.0						3.0				
フッ素化合物で表面処理した酸化亜鉛				3.0						3.0			
シリコン処理タルク					3.0						3.0		
シリコン処理マイカ						3.0						3.0	
オクチルデカノール	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	

【0117】実施例154~158 (マスカラ)
下記第25表にマスカラの配合例を5例掲げる。

【0118】
【表25】

第25表: マスカラ

成分	実施例				
	154	155	156	157	158
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.0				
N-エチルヘキシルサルコシンプロピルエステル		1.0			
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル			1.0		
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル				1.0	
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル					1.0
キャンデリラワックス		4.0			
シアバター			4.0		
マイクロクリスタリンワックス				4.0	
ミツロウ	5.0	1.0	1.0	1.0	5.0
カルナウバロウ	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
イソステアリン酸	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
モノステアリン酸グリセリル	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
流動パラフィン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ヒドロキシエチルセルロース	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
1,3-ブチレングリコール	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
緑色3号	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
酸化防止剤	適量	適量	適量	適量	適量
防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量
精製水	残余	残余	残余	残余	残余

【0119】実施例159~167 (アイライナー)
下記第26表にアイライナーの配合例を9例掲げる。

【0120】
【表26】

第26表: アイライナー

成分	実施例								
	159	160	161	162	163	164	165	166	167
N-ラウロイルアラニン- α -ヒドロキシプロピルエステル	3.0								
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		3.0							
N-ラウロイルアラニン- β -ヒドロキシプロピルエステル			3.0						
N-ミリスチルグルタミン酸イソプロピルエステル				3.0					
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル					3.0				
N-ココイルサルコシンオクチルエステル						3.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							3.0		
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル								3.0	
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル									3.0
色材	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
タルク	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
ステアリン酸亜鉛	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
ステアリン酸	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
ミツロウ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
マイクロクリスタリンワックス	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
硬化油	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
ラノリン脂肪酸イソプロピル	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
イソステアリン酸セチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
モクロウ	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
酸化防止剤、殺菌剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
タルク	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余

【0121】実施例168～173（乳化型ファンデーション）

掲げる。

【0122】

下記第27表に乳化型ファンデーションの配合例を6例

【表27】

第27表: 乳化型ファンデーション

成分	実施例					
	168	169	170	171	172	173
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	1.5				0.5	3.0
N-エチルヘキシルサルコシンプロピルエステル		1.7				
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル			2.0			
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル				2.0		
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
セトステアリルアルコール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
パルミチン酸セチル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
スクワラン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
流動イソパラフィン	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
水酸化レシチン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
モノステアリン酸ポリエチレン(25)グリコール	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
縮合リシノレイン酸ポリグリセリル	0.5			0.5		
ポリオキシエチレン(20)硬化ヒマシ油		0.5			0.5	
ジイソステアリン酸ジグリセリル			0.5			0.5
アミノ酸系油剤(*)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
プロピレングリコール	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
グリセリン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
色材	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
レグルタミン酸	0.1				0.05	0.2
di-ヒロリドンカルボン酸		0.1				
ポリアスパラギン酸Na			0.1	0.1		
トリメチルグリシン					0.1	
フェノキシエタノール	適量	適量	適量	適量	適量	適量
香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量
精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

(*) 味の素(株) エルデマウCL-202

【0123】実施例174～182（アイシャドー）
下記第28表にアイシャドーの配合例を9例掲げる。

【0124】

【表28】

第28表: アイシャドー

成分	実施例								
	174	175	176	177	178	179	180	181	182
N-ラウロイルアラニン-ヒ ブチルエステル	1.0								
N-オクタノイルグリシン イソプロピルエステル		1.0							
N-ラウロイルアラニン エチルエステル			1.0						
N-ミリスチルグルタミン酸 イソプロピルジエステル				1.0					
N-ラウロイルサルコシン イソプロピルエステル					1.0				
N-コイルサルコシン オクチルエステル						1.0			
N-ココイルアラニン イソプロピルエステル							1.0		
N-ラウロイルバリン イソプロピルエステル								1.0	
N-コイル-N-メチル- β-アラニンイソプロピルエステル									1.0
ミツロウ	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
カルナウバロウ	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
キャンデリラロウ	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
アミノ酸系油剤(*1)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
アミノ酸系油剤(*2)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
セレン	9.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
マイグロクリスタリンワックス	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
ヒマシ油	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0
パルミチン酸イソプロピル	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
イソステアリン酸ヘキサデシル	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
液状ラノリン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
モノオレイン酸ソルビタン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
針状酸化チタン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
タルク	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
色材	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

(*1) 味の素(株) エルデュウCL-202

(*2) 味の素(株) エルデュウPS-203

【0125】実施例183～188 (ほほ紅)

下記第29表にはほほ紅の配合例を6例掲げる。

【0126】

【表29】

第29表: ほほ紅

成分	実施例					
	183	184	185	186	187	188
N-ラウロイルサルコシンイソプロピルエステル	0.1					
N-エチルヘキシルサルコシンイソプロピルエステル		0.1				
N-オクタノイルバリンイソプロピルエステル			0.1			
N-コイル-N-メチル-β-アラニン イソプロピルエステル				0.1		
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル					0.1	
N-ココイルバリンイソプロピルエステル						0.1
カオリン	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
棒状酸化チタン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ステアリン酸亜鉛	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
炭酸マグネシウム	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
色材	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
スクワラン	0.5					
軽質イソパラフィン		0.5				
ひまわり油			0.5			
アボガド油				0.5		
グレープシードオイル					0.5	
オリブオイル						0.5
流動パラフィン (軽質)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
モノオレイン酸ソルビタン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
液状ラノリン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
酸化防止剤、殺菌剤	適量	適量	適量	適量	適量	適量
香料	適量	適量	適量	適量	適量	適量
タルク	残余	残余	残余	残余	残余	残余

【0127】実施例189～200 (口紅)

下記第30表には口紅の配合例を12例掲げる。

【0128】

【表30】

第30表:口紅

成分	実施例											
	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
N-ラウロイルアラニン- ϵ -ブチルエステル	2.0											
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		2.0										
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			2.0									
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル				2.0								
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル					2.0							
N-ココイルザルコシンオクチルエステル						2.0						
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							2.0					
N-ラウロイルザルコシンプロピルエステル								2.0				
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル									2.0			
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル										2.0		
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル											2.0	
N-アスパラギン酸イソプロピルジエステル												2.0
ミツロウ	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
キャンデリラロウ	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
カルナウバロウ	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
セレシン	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
マイクロクリスタリンワックス	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
ヒマシ油	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	39.9	39.9	39.9
N-ラウロイル-L-リジンで表面処理したタルク										0.1		
シリコーンで表面処理した酸化チタン											0.1	
フッ素化合物で表面処理した酸化亜鉛												0.1
ラノリン	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
リシノール酸オクチルデシル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
ミリスチン酸イソプロピル	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
飽和酸化チタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
赤色202号	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0

【0129】実施例201~209 (油性ファンデーション)

げる。

【0130】

下記第31表に油性ファンデーションの配合例を9例掲

【表31】

第31表:油性ファンデーション

成分	実施例								
	201	202	203	204	205	206	207	208	209
N-ラウロイルアラニン- ϵ -ブチルエステル	5.0								
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		5.0							
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			5.0						
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル				5.0					
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル					5.0				
N-ココイルザルコシンオクチルエステル						5.0			
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							5.0		
N-ラウロイルバリンイソプロピルエステル								5.0	
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル									5.0
タルク	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
微粒子酸化チタン	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
カオリン	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
黄色酸化鉄	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
流動パラフィン	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
パルミチン酸2-エチルヘキシル	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
オクチルデカノール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
イソノナン酸オクチル	2.0					2.0		1.0	
ミリスチン酸イソセチル		2.0					2.0	1.0	
オクタノール			2.0						1.0
イソノナン酸2-エチルヘキシル				2.0					1.0
イソステアリン酸イソステアリン					2.0				
ラノリン						4.0			
液状ラノリン							4.0		
液状ラノリン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0			4.0	4.0
マイクロクリスタリンワックス	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
セレシン	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
ステアリン酸モノエタノールアミド	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

【0131】実施例210~221 (粉おしろい)

【0132】

下記第32表に粉おしろいの配合例を12例掲げる。

【表32】

第32表：初おしろい

成分	実施例											
	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221
N-ラウロイルアラニン- γ -ヒポチルエステル	1.0											
N-オクタノイルグリシンイソプロピルエステル		1.0										
N-ラウロイルアラニンエチルエステル			1.0									
N-ミリスチルグリシンオクチルエステル				1.0								
N-ラウロイルザルコシンイソプロピルエステル					1.0							
N-ココイルザルコシンオクチルエステル						1.0						
N-ココイルアラニンイソプロピルエステル							1.0					
N-ラウロイルバリニイソプロピルエステル								1.0				
N-ココイル-N-メチル- β -アラニンイソプロピルエステル									1.0			
N-ココイルグルタミン酸イソプロピルジエステル										1.0		
N-アスパラギン酸イソプロピルジエステル											1.0	
N-ラウロイルグルタミン酸- γ -ヒポチルジエステル												1.0
タルク	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2	73.2
カオリン	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
炭酸カルシウム (軽質)	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
微粒子酸化チタン	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
ステアリン酸マグネシウム	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
着色顔料	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
ミリスチン酸イソプロピル	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
セリサイト	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0

【0133】
 【発明の効果】本発明によれば、油性原料に特有のべたつき感を改善し、皮膚に対するのび、なじみ、なめらか

さ等の使用感、毛髪に対するなめらかさ、やわらかさの付与、櫛どおりの良さ等のコンディショニング効果に優れる化粧料を容易に提供することができる。

【手続補正書】

【提出日】平成11年6月1日(1999. 6. 1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

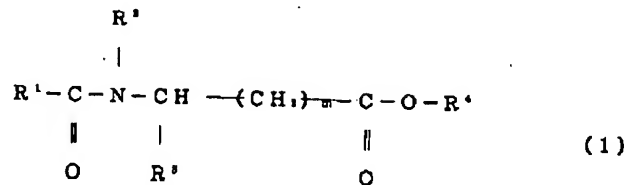
【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項2】N-長鎖アシル中性アミノ酸エステルが下記一般式(1)で表されるものであることを特徴とする請求項1記載の化粧料組成物。

【化1】



(式中、R¹は炭素原子数5～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を、R²は水素原子又は炭素原子数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R³は水素原子又は炭素原子数1～4の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を、R⁴は炭素原子数1～10の分岐鎖又は直鎖のアルキル基又はアルケニル基を、そしてmは0～2の整数を示す。)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

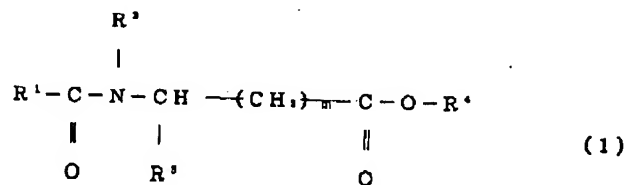
【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】

【化3】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

(参考)

A 6 1 K 7/035
7/06
7/075
7/08
7/09
7/15
7/48
7/50

A 6 1 K 7/035
7/06
7/075
7/08
7/09
7/15
7/48
7/50